様式1 令和4年度　山梨県立かえで支援学校学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	子どもたちが幸せな人生を送るために－「行きたい学校」「行かせたい学校」「連携したい学校」「働きたい学校」

山梨県立かえで支援学校校長　柳澤　縁

本年度の重点目標	
	1 児童生徒の人権を尊び個性や特性を最大限に伸ばす学校
	2 保護者と教師が共通理解を図り信頼関係で結ばれている学校
	3 特別支援教育のセンター的機能を果たす学校
	4 教職員の融和を重んじ，個性と能力が発揮できる明るい学校

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価		
	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自己評価							学校関係者評価	
	本年度の重点目標			年度末評価（2月1日現在）			実施日 （令和5年2月9日）	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	児童生徒一人一人の実態に応じた教育活動を通して、自己肯定感を育み、個性や特性を最大限に伸ばす教育活動がなされている。	①社会で主体的に生活するために必要な力を育む教育活動が、小・中・高の各学部で系統的に実施される教育課程を編成する。	学部間の連携の充実と，個性や特性を最大限に伸ばす教育課程の編成	・教務連絡会（教務主任・各学部主事との情報交換）を定期的に行い、児童生徒の実態に合わせて、小学部・中学部・高等部がそれぞれ他学部の教育目標を意識して教育課程編成を行った。 ・個に応じた指導を念頭に、自立を目指す取り組みを充実させた。 ・個別の指導計画に基づき授業作りには評価項目の明確化と教科項目の一貫性・系統性を取り入れ、指導と評価の一体化を図った。	A	・来年度も教務連絡会で各学部間の情報共有を積極的に行っていく。 ・GIGAスクール構想でICT機器が整備された。個々の特性に応じた教育活動が実施できるよう児童生徒や教師がICT機器を活用していく。 ・キャリアパスポートにより、学年や学部間の段階での学びをつなげキャリア教育の意義を浸透させていく。	4	・一人一人の児童・生徒と向き合い、きめ細かな指導をされている。子どもたちが楽しそうに生き生きと活動していたことがとても印象的である。さらに教育実践を積み重ね、充実が図られることを願う。 ・学校教育目標と指導方針を受けて、発達段階に応じて各学部の方針が設定されている。 ・ICT活用の追求を期待する。特に、十分な発語のない子どもに対してICTを活用することで、コミュニケーションがとりやすくなる等の取組みもあるので、そのような子どもに対するICTを活用した教育方法を実施してほしい。
		② 各学部におけるキュアリア教育に係る目標を明確にし、学部間の引き継ぎを重視した取り組みを推進する。	発達段階に応じたキャリアパスポートの有効活用					
		③ 個別の指導計画に基づいて行われた学習の状況や結果を適切に評価し、教育課程の評価と改善につなげる。	指導と評価の一体化と合理的配慮の充実。					
2	子どもの教育に関する情報提供や情報交換が積極的に行われており，保護者と教職員が子どもの教育について共通理解を深め信頼関係で結ばれている。	①学校での教育活動について情報提供と説明責任を果たし，保護者との信頼関係を築く。	全校・学部保護者会，家庭訪問，学期末懇談，学部・学級だよりの充実	・家庭訪問や学期ごとの懇談を実施した。また、学部・学年だよりも定期的に発行し、個別の指導計画や教材の配布も行った。状況に応じて関係機関等との会議を行い、連携を密にした。 ・マチコミを利用し、感染症予防対策の情報や学校休業時の対応を保護者に発信できた。 ・学校ホームページにより、学校行事等の活動を動画配信し、保護者への連絡に活用した。	A	・今まで以上に保護者との連携を強化していく。また、関係機関（放課後デイ）との連携も深めていく。感染症予防対策ついては、県からの通知や本校での対応の情報提供を行っていく。 ・ホームページで学校行事等の活動を公開したが、保護者への周知をもっと積極的にPRしていく。ホームページの内容の充実を図る。	3	・学校ホームページの更新を定期的に行いながら内容もより充実させ、保護者に対する学校の情報の周知・活用を浸透させるための対策が必要である。 ・保護者から学校への相談は、連絡帳を使ってまずは担任となるが、そこで解決できない場合がある。また、解決に向けての必要な情報について十分ではない等の場合も含め、学年、学部、専門家等のネットワークでカバーしていってほしい。 ・相談を受けられる体制を作るとともに、相談をしやすい環境整備が重要である。また、どのような相談の窓口、方法があるか情報発信していくことも必要である。
		②個別の教育支援計画・通信表等を通し、家庭と学校とで支援方法を共有し、連携して支援を行う。	個別の指導計画・通信表等の様式及び記述方法の見直し					
		③学校ホームページの教育活動に関する掲載内容の充実と定期的な更新及び保護者の活用促進を図る。	動画等による教育活動の配信					
3	地域関係者に対して、積極的に学校の教育方針や取り組みを発信し、地域における特別支援教育のセンター校としての役割を果たしている。	①障害の特性，合理的配慮を考慮した指導・支援に関する専門性の向上及び実践を充実させ，地域の特別支援教育のセンター校として，信頼される教育実践を蓄積する。	ICT教育推進を含む校内研究・研修会，事例検討・授業研究の充実	・研究会や校内外の講師によるリモート研究会を実施し、教員の専門性の向上に努めた。 ・感染症予防対策のため、交流活動を交流先と連絡・調整しリモートで実施した。 ・感染症予防対策のためオープンスクールを中止としたが、学校説明会を各学部で実施した。また、個別相談に力を入れ、センター的機能を担い本校の教育活動の発信に尽力した。	A	・来年度より、ICTを活用した授業づくり実践研究校としてiPod研究を進めていく。 ・交流先の各学校と連絡調整を図り、それぞれの学部で交流がリモートで実施できるようにする。 ・相談内容に応じた情報収集を行い教員の分析力向上のため、PT等外部専門家を活用しながらセンター的機能の発揮に努める。	4	・交流教育は、児童生徒にとって日常の学習では経験できない貴重な機会となり、地域の方には学校の児童生徒や先生方を知っていただくことのできる重要な取り組みである。かえで支援学校との交流は交流相手校でも学校の特色の一つとなっている。今年度は作品のやり取りやリモートを使った交流など、工夫して取り組めた。リモートについては、今後も取り組む価値があると感じた。 ・居住地校交流に課題を感じている。コストパフォーマンス面から消極的になりがちだと思うが、居住地校交流の良さについて保護者伝えてほしい。
		②「開かれた学校」を目指し，地域の学校・住民との交流を積極的に行い，地域の社会資源を有効に活用することで，相互理解を通して児童生徒の豊かな人間性と社会性を育む。	リモートを活用した交流及び共同学習の実施、関係者会議の実施					
		③オープンスクール，授業体験会，教育相談活動等の機会をより充実させると共に地域支援体制を確立する。	相談支援体制の強化，外部専門家の活用，外部機関との連携					
4	教職員の融和を重んじ，個性と能力を十分に発揮できるよう，明るく楽しい学校づくりに努めている。	①各学部や分掌の課題を全校で共有し、関係部署が連携しながら対応できる体制を構築する。	各会議の効果的な運用	・安全衛生委員会で教員の疲労度合いや働き方について意見を共有できた。また、内容は全教員に報告した。 ・中間評価から、業務の合理化や勤務時間の適正化について、ある程度共通理解が得られた。 ・研究部による研修会を計画的に行った。教員評価も個々のパフォーマンス向上を目的に的確に実施でき、学校としてのパフォーマンス向上にも繋がった。	B	・定時退庁日の完全実施、勤務時間外在校時間の個々の管理をを徹底し、会議時間の適正化を図ったりするなど業務の合理化を行った。 ・来年度校内人事については、早期に希望を把握し十分に検討する時間を確保した。 ・業務の効率化へ向けて、ICTの活用を更に充実させていく。	4	・会議時間を短縮したことで会議が合理化できることはよいが、内容が不十分になってしまう危惧もあるので、しっかりカバーしていってもらいたい。 ・多忙化改善は大切なことであるが、教員の仕事にはきりがない。行事の精選が大きいと思うので、毎年見直しをしていくことが必要。 ・勤務時間の適正化では、学校全体での業務改善・効率化への取り組みがあるが、職員の理解に相違があるものと思われる。学部主任、分掌主任を中心とした働きかけも引き続き行ってほしい。
		②定時退庁日の設定，勤務時間の適正化，教職員の共通理解を促進させ働きやすい職場環境づくりを推進する。	業務の合理化と協働性の向上					
		③研修会や人事評価等の取組を通じ，個々のパフォーマンスの向上と同時に，学校全体の組織力を高め，また，服務規律の厳守，いじめ及び体罰に関する意識の向上も目指す。	教職員研修会や自己観察書を基にした個人面談の実施					